

令和元年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 組織の名称

「令和元年度 都立小石川中等教育学校 21 開拓委員会」(全日制課程)

(2) 事務局の構成

主幹教諭(広報部主任) = 事務局長、広報部員 2 名 計 3 名

(3) 内部委員の構成

校長、

副校長 2 名

経営企画室長

主幹教諭(教務主任)

主幹教諭(生活指導主任)

主幹教諭(進路指導主任)

主任教諭(国際部主任)

主任教諭(SSH 部主任) 計 9 名

(4) 協議委員の構成

立教大学教授・松本茂氏

日本科学未来館・松岡均氏

株式会社島津理化・梅田篤史氏

文京区立駕籠町小学校長・矢部明美氏

文京区立昭和小学校長・杉本謙氏

菓一商店会会長・中村安次氏

小石川中等教育学校 PTA 会長・水野忠知氏

小石川中等教育学校 PTA 副会長・山本隆子氏 計 8 名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和元年6月7日(金) 内部委員9名、協議委員5名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、各分掌からの報告

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和元年10月18日(金) 内部委員9名、協議委員8名

令和元年度学校経営計画進捗状況中間報告(1学期分)

学校評価の趣旨説明、地域アンケートの内容確認

協議:各分掌からの中間報告、本校の現状と課題について意見交換

第3回 令和2年2月21日(金) 内部委員9名、協議委員5名

令和元年度学校経営計画進捗状況中間報告(2学期分)

学校評価結果の報告及び学校経営に対する提言

協議:各分掌からの中間報告、評価結果についての協議及び学校経営に対する提言

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和元年6月7日(金) 内部委員1名、評価委員3名、事務局3名

学校運営連絡協議会設置要綱、学校評価の趣旨確認

今年度の学校評価の内容・項目の確認

第2回 令和元年10月18日(金) 内部委員1名、評価委員4名、事務局3名

本校の現状と課題の検討

第3回 令和2年2月21日(金) 内部委員1名、評価委員3名、事務局3名

評価結果の分析・考察、学校経営に対する提言の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

- ア 「学校の姿勢・進路指導」「授業・学習」「学校生活・行事」の三つの観点から評価を行った。
- イ 中等教育学校の完成年度である平成23年度からこの観点を基本として評価を行って経年変化を追い、分析することをねらいとしたアンケート質問項目を継承し実施した。地域については、質問項目を一部修正して作成し、実施した。
- ウ 生徒、保護者、教員に対して同じ内容についてアンケートを実施した。地域については対象を一部変更し、各分掌の協力を得ながら生徒と関わりがあった方にアンケートを実施した。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・回収率

- ア 10月～11月 全校生徒 回収率 98.1%
- イ 10月～11月 保護者全員 回収率 98.8%
- ウ 11月 教職員 回収率 100%
- エ 5月～12月 地域

| 依頼先 | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|-------|-----|-----|--------|
| 職場体験 | 52 | 36 | 69.2% |
| 奉仕活動 | 11 | 9 | 81.8% |
| 東京寺子屋 | 9 | 9 | 100.0% |
| 巣一商店街 | 80 | 51 | 63.8% |
| 駕籠町会 | 40 | 23 | 57.5% |

| 依頼先 | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|------------|-----|-----|--------|
| 大原地域活動センタ | 18 | 18 | 100.0% |
| 昭和小学校 PTA | 20 | 15 | 75.0% |
| 駕籠町小学校 PTA | 10 | 8 | 80.0% |
| 林町小学校 PTA | 20 | 20 | 100.0% |
| 消防団 | 25 | 15 | 60.0% |

(3) 主な評価項目

ア 保護者・教職員・生徒向け質問項目

[参考：生徒用]

- Q1 本校は、小石川教養主義のもと、幅広くいろいろな内容を学べる学校であると思う。
- Q2 本校は、理数教育に力を入れていると思う。
- Q3 本校は、国際理解教育に力を入れていると思う。
- Q4 本校の先生方は、教育内容・教育方法の工夫に努めていると思う。
- Q5 本校では、授業時間外の学習支援として、補習・講習・サイエンスカフェ・海外語学研修の事前事後指導・ライティングワークショップなどの取組が充実していると思う。
- Q6 本校では、学校行事等を通じて私たちの主体性や創造性を伸ばすことができると思う。
- Q7 本校では、私たちの成長・発達に合わせた適切な面談や、悩みの相談ができる機会を設けていると思う。
- Q8 本校は、体罰や暴言を防止するために、積極的に取り組んでいると思う。
- Q9 本校は、いじめを防止するために、積極的に取り組んでいると思う。
- Q10 【前期課程】業観を育成するために、小石川セミナー・職業講話・東京寺子屋・職場体験などのキャリア教育を推進していると思う。
【後期課程】本校では、将来における社会人・職業人としてのキャリア形成を支援するために、小石川セミナー・職業講話・小石川フィロソフィー・分野別大学模擬講義などのキャリア教育を推進していると思う。
- Q11 私は、自ら志を立て（立志）、自分が進む道を自ら切り拓き（開拓）、新しい文化を創り出す（創作）という本校の教育目標を理解している。
- Q12 私は、熱心に授業や自宅学習に取り組んでいる。
- Q13 私は、本校での教育を通じて他者を尊重する考え方を学んでいる。
- Q14 私は、あいさつをよくしている。
- Q15 私は、ルールやマナーを守り、節度ある行動をとっている。
- Q16 私は、充実した学校生活を送っている。
- Q16. の判断は次のどれによるものですか。（複数選択可）①授業 ②部活動 ③友人 ④施設 ⑤行事

イ 教職員向け質問項目

ワークライフバランスについて、評価項目を設定した。

ウ 地域向け質問項目

地域との連携、本校への認知度について、それぞれ評価項目を設定した。

(4) 評価結果の概要

ア 保護者・教職員・生徒向けアンケート

1 あてはまる 2 どちらかというにあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない
のうち、1及び2を肯定的な意見の割合とするとその割合は以下の通りである。

肯定的な意見の割合

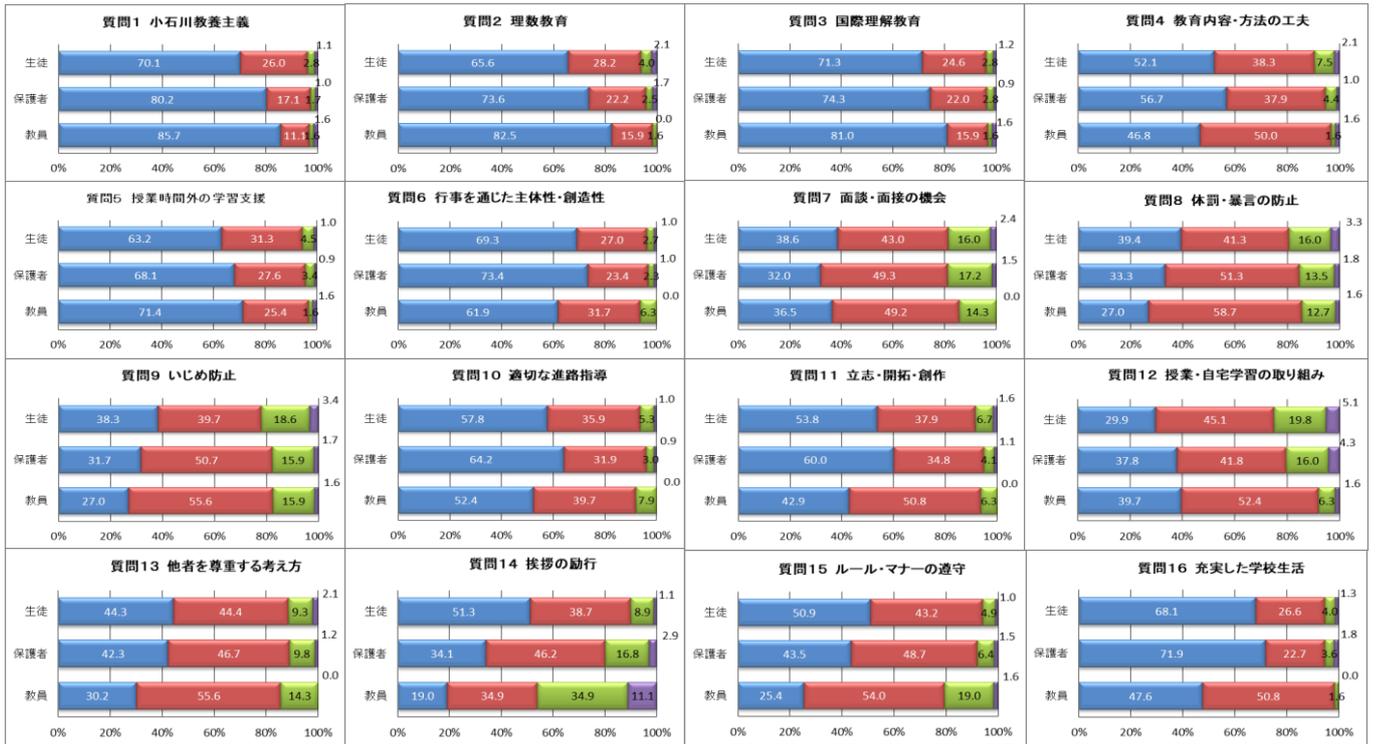
| | 生徒 | 1+2 | 保護者 | 1+2 | 教員 | 1+2 |
|------|---------------|------|---------------|------|---------------|------|
| 100% | 行事を通じた主体性・創造性 | 96.3 | 小石川教養主義 | 97.3 | 理数教育 | 98.4 |
| | 小石川教養主義 | 96.1 | 行事を通じた主体性・創造性 | 96.8 | 充実した学校生活 | 98.4 |
| - | 国際理解教育 | 96.0 | 国際理解教育 | 96.3 | 小石川教養主義 | 96.8 |
| - | 充実した学校生活 | 94.6 | キャリア教育の推進 | 96.1 | 国際理解教育 | 96.8 |
| - | 授業外の学習支援 | 94.5 | 理数教育 | 95.8 | 授業外の学習支援 | 96.8 |
| | ルール・マナーの遵守 | 94.1 | 授業外の学習支援 | 95.7 | 教育内容・方法の充実 | 96.8 |
| | 理数教育 | 93.9 | 立志・開拓・創作 | 94.8 | | |
| | キャリア教育の推進 | 93.7 | 充実した学校生活 | 94.6 | 行事を通じた主体性・創造性 | 93.7 |
| | 立志・開拓・創作 | 91.7 | 教育内容・方法の充実 | 94.6 | 立志・開拓・創作 | 93.7 |
| | | | ルール・マナーの遵守 | 92.1 | 授業・自宅学習の取り組み | 92.1 |
| 90% | 教育内容・方法の工夫 | 90.4 | | | キャリア教育の推進 | 92.1 |
| | 挨拶の励行 | 90.0 | | | | |
| | 他者を尊重する考え方 | 88.6 | 他者を尊重する考え方 | 89.0 | | |
| - | | | | | 他者を尊重する考え方 | 85.7 |
| - | | | 体罰・暴言の防止 | 84.6 | 体罰・暴言の防止 | 85.7 |
| - | | | いじめ防止 | 82.4 | 面談・面接の機会 | 85.7 |
| | 面談・面接の機会 | 81.6 | 面談・面接の機会 | 81.3 | いじめ防止 | 82.5 |
| | 体罰・暴言の防止 | 80.7 | 挨拶の励行 | 80.3 | | |
| 80% | | | 授業・自宅学習の取り組み | 79.7 | ルール・マナーの遵守 | 79.4 |
| | いじめ防止 | 78.0 | | | | |
| - | 授業・自宅学習の取り組み | 75.0 | | | | |
| - | | | | | | |
| 70% | | | | | | |
| 60% | | | | | 挨拶の励行 | 54.0 |

参考(平成30年度)

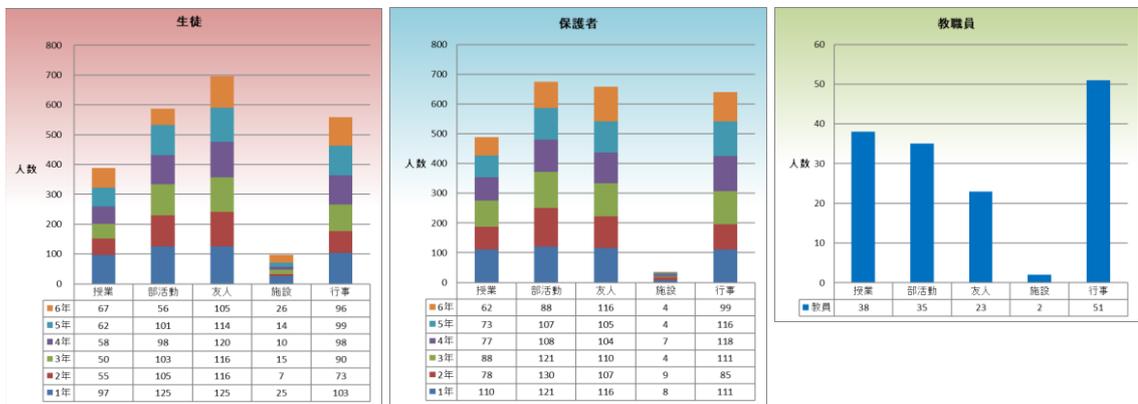
| | 生徒 | 1+2 | 保護者 | 1+2 | 教員 | 1+2 |
|------|---------------|------|---------------|------|---------------|-------|
| 100% | 国際理解教育 | 97.5 | 小石川教養主義 | 98.8 | 小石川教養主義 | 100.0 |
| | 小石川教養主義 | 97.3 | 国際理解教育 | 98.4 | 国際理解教育 | 100.0 |
| - | 授業外の学習支援 | 96.6 | 理数教育 | 97.7 | 理数教育 | 100.0 |
| - | 理数教育 | 95.4 | キャリア教育の推進 | 96.8 | 授業外の学習支援 | 100.0 |
| - | 充実した学校生活 | 94.7 | 行事を通じた主体性・創造性 | 96.6 | 教育内容・方法の充実 | 98.4 |
| | ルール・マナーの遵守 | 94.3 | 授業外の学習支援 | 96.1 | 行事を通じた主体性・創造性 | 96.9 |
| | 行事を通じた主体性・創造性 | 94.0 | 充実した学校生活 | 95.3 | 充実した学校生活 | 95.3 |
| | キャリア教育の推進 | 91.6 | 教育内容・方法の充実 | 94.5 | | |
| | | | 立志・開拓・創作 | 93.9 | | |
| | | | 他者を尊重する考え方 | 92.5 | | |
| 90% | 立志・開拓・創作 | 89.9 | ルール・マナーの遵守 | 88.6 | 立志・開拓・創作 | 89.1 |
| | 教育内容・方法の工夫 | 89.8 | 体罰・暴言の防止 | 85.1 | 他者を尊重する考え方 | 87.5 |
| - | 挨拶の励行 | 89.7 | いじめ防止 | 82.6 | 体罰・暴言の防止 | 84.4 |
| - | 他者を尊重する考え方 | 86.4 | 面談・面接の機会 | 81.5 | 面談・面接の機会 | 84.1 |
| - | 面談・面接の機会 | 81.6 | 授業・自宅学習の取り組み | 80.4 | 授業・自宅学習の取り組み | 82.8 |
| 80% | 体罰・暴言の防止 | 79.4 | 挨拶の励行 | 77.5 | ルール・マナーの遵守 | 78.1 |
| | いじめ防止 | 76.5 | | | いじめ防止 | 76.6 |
| - | 授業・自宅学習の取り組み | 74.6 | | | キャリア教育の推進 | 76.2 |
| - | | | | | | |
| 70% | | | | | | |
| 60% | | | | | 挨拶の励行 | 51.6 |

生徒、保護者、教員対象のアンケート集計結果

■1そう思う ■2ややそう思う ■3あまりそう思わない ■4そう思わない

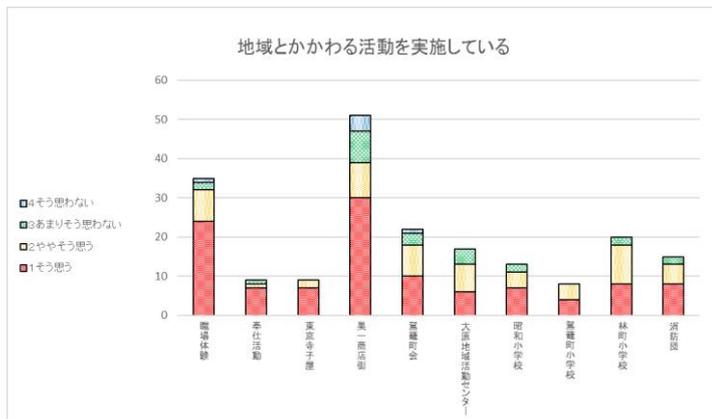


質問16「充実した学校生活」の内訳



イ 地域向けアンケート結果

質問項目 小石川中等教育学校は地域とかかわる行事や活動を行っていると思いますか。



4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

外部の協議委員8名を迎えて3回の会議をもつことができた。協議委員は、大学教授、科学コミュニケーター、企業関係者、小学校校長、商店会会長、PTA役員であり、それぞれの立場から学校教育全般に渡って貴重なご意見を伺うことができた。

(2) 学校運営連絡協議会で取り上げられた内容と課題

ア 「挨拶の励行・ルール・マナーの遵守」について

挨拶をどのような場面で誰に対してどのようにするのがよいのかについて、保護者や教員が生徒に伝えることが必要であり、その場に応じた対応ができることが大切である。また、それに対する評価としてアンケート項目の表現も変えた方がよい。

イ アンケート項目の変更について

同じ内容について経年変化を比較することは意味のあることであるが、一方で学校経営の中期目標の変更に対しての評価アンケート項目を変更することも必要である。

ウ 防災教育について

避難訓練、防災訓練だけでなく、SSH校として教科学習の中で取り上げたり、研究のテーマに水害や防災を含めたりしてもよいのではないかと。災害が起きた時には、保護者との連絡をとる複数の手段、そして生徒自身がどのように行動すればよいか、について考えていく必要がある。

エ 教員の働き方改革について

様々な職業においてどのような工夫をされているのかをお聞きし、大変参考になった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

本校の教育活動の3つの柱となる「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」に対する認知度は、生徒、保護者とも昨年度に引き続き高い。また、「充実した学校生活」に関しては、生徒及び保護者ともに約95%と高い評価となっている。

(2) 進路指導

生徒一人ひとりが希望する進路実現に向けて、3つの柱である「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を融合させて推進していく。模擬試験の答案分析等を行い、生徒の学習における課題を、各教科を超えて共通理解を図るとともに、各教科が他教科を意識した指導を実施していく。また、海外大学受験の希望者が増加していることを受け、海外大学入学に向けた支援を充実させていく。

(3) 学習指導

「教育内容・方法の充実」については、保護者の肯定的な意見は約95%と高い。また、「教育内容・方法の工夫」については生徒の肯定的な意見は90%以上を占める。授業評価アンケートの結果やコメントを併せて活用し、より生徒の実態に即した教育活動を実践していくとともに、6年間を通したフィロソフィーを意識した課題探求型の授業実践の工夫を目指す。

(4) 生活指導

「ルール・マナーの遵守」については生徒、保護者の肯定的な意見の割合は90%以上と高いが、教員の肯定的な意見は80%程度と低い。また、「挨拶の励行」については生徒90%、保護者約80%、教員約52%と乖離している。学校経営計画にある「ソーシャルスキル」は挨拶やルール・マナーの遵守に留まらず、社会性を身に付けるうえで必要なスキルであるため、生徒に対して学校生活の中で意識させていく必要がある。

(5) 地域連携

学校安全委員会やいじめ対策委員会、避難訓練や宿泊防災訓練、終業式等での講話、職場体験、社会参加などにおいて、警察や消防、町会の御協力をいただき、助言等を受けながら実践的な取組がで

きた。社会参加では、町会や小学校等から感謝のことばをいただくとともに、次年度も継続して生徒の活動を依頼されている。地域との更なる連携を図り、学校の教育活動の充実と地域への貢献を図っていく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう思う | どちらとも言えない | あまりそう思わない | そう思わない | 分からない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-----|
| 7人 | 1人 | | | | | |